

編集後記：気が付くと何かを継続して20年やら30年やらの特典をいただけるような歳になった。

少し前、気象庁勤続20年で大臣から表彰状をいただいた。また、20歳のときに普通免許を取得し、中古車購入と同時にJAFに入会したが、そのJAFには30年継続会員の特典として、ホテルの宿泊やらディナーやらを割り引いていただけるプレミアム優待サービスがあり、何回か使わせていただいた。ちなみに、物持ちの良さには自信があり、20歳の時に購入した白い小さい車とは30年を超える付き合いとなっている。実家には、タクシードライバーだった祖父がもらった、何十年も無事故無違反だった功績の表彰状が飾ってある。残念ながら私はそのような模範ドライバーではないのだが、10年超無事故無違反の証、金色のSD（セーフティードライバー）カードは所有している。これもそれなりの特典がもらえるようだ。

さて、大学の学部を卒業するとき、教授の推薦で入会した日本気象学会も、気象庁入庁とともに新野先生に薦められて入った「天気」の編集委員会も、どちらも継続年数は稼いではいるのだが、私の貢献度で何ら

かの特典があっては罰が当たる（笑）。

という感じでそろそろ50台も半ばとなる。怠け者ゆえ、当然天命なんぞ知る由も無く、大した人生でも無いわけだが、この編集後記で度々登場させたミッションは無事にコンプリート。気象庁の職員録には、私と似た名前が掲載されるようになった。

実はもう一つ、以前から密かに思っているミッションがある。早期退職して、天気予報のできるオヤジがハンドドリップする珈琲屋を開くこと。中古のワークステーションを購入し、簡易な予報モデルを走らせて、ローカルな天気予報を出せると面白そうだ。古く渋い木の本棚に、日に焼けた「天気」のバックナンバーを並べておけばハクが付くだろうか。古本屋でせっせと買い集めた気象や珈琲の本も並べたい。ドリップ中の珈琲の泡のように妄想が膨らむ。

でも、この話を友人にすると、皆がみな「借金を抱えて夜逃げするのがオチだから絶対やめとけ」と言う。まあ、これは本当に夢のままに終わらせた方が良いのかもしれない。

（金田昌樹）